

# 国境を越え

～伝統文化に世界の風～

## 広がる将棋ブーム!

レポート 北尾まどか女流初段



森内名人（手前）と羽生二冠らの指導対局

オープン参加のトーナメントは、ヨーロッパ将棋普及の祖、故ホッジス氏にちなんで「ジョージ・ホッジス・メモリアル・オープン・トーナメント」と名付けられた

INTERNATIONAL SHOGI FORUM  
<http://isf.shogi.fr>

主 催 公益社団法人日本将棋連盟 フランス将棋連盟  
後 援 在仏日本大使館 Rueil Malmaison 市  
特別協力 読売新聞社 産経新聞社 日本経済新聞社  
協 賛 公文教育研究会  
助 成 笹川日仏財団



世界選手権の対局。

左が優勝のジャン・フォルタンさん  
右が2位のラースロー・アブツキさん



フランス将棋連盟の大会スタッフ。右端が会長のファビアン・オスモンさん

第5回国際将棋フォーラムが10月27日から30日まで、フランス・パリ近郊のリュエリュ・マルメゾン市で開催された。このイベントは将棋の海外普及と国際親善を目指して1999年に第1回が開催され、今回が初の海外開催。

プロ棋士は森内俊之名人、羽生善治二冠、青野照市九段、畠山成幸七段、増田裕司六段、伊奈祐介六段、北尾まどか女流初段が参加した。現地の模様を北尾女流初段がレポートする。

日本国内だけでなく、世界でも将棋ブームが起きつつある。

将棋はインターネットとの相性が良い、とよく言われるが、海外普及に於いてもネットは重要な役割を担っている。

フェイスブックなどの世界に普及したSNSには、各国の将棋ファンがグループを登録し、活発に情報交換をしている。

また、各地の将棋団体のホームページが次々と出現し、それぞれの言語でルールや歴史、棋具の説明まで網羅されているのを見ると、その情熱は日本のファンにまったくひけをとらないことが感じられる。

海外では漫画『NARUTO』で将棋を知った若者のプレイヤーが多く、彼らが情報を集めるのはやはりネットが中心。

将棋を英語で紹介する動画をユーチューブで配信している川崎智秀さんは、英語を公用語とする「81道場」という対戦サイトを作った。

そして今、ここで育った選手たちが、世界のトッププレイヤーとして大活躍している。

## 初の海外開催

今回の国際将棋フォーラム（以下ISF）は、初の海外開催。日本国内で過去4回行われ、これが5回目だ。3年に1度開かれ、各国からの代表選手が集まる大会がメインイベントである。

10月27日から4日間にわたる会期中、世界選手権と同時にオープントーナメントも実施され、会場には約250名が訪れた。

印象的だったのは、年齢層が若いこと、そして女性の姿が多いこと。夫婦での来場も多く、ゲームに対する意識の違いを感じた。

# 現地では日本が大人気

開催地・フランスでは今"日本"が大人気。町中で日本食レストランや、漢字の書かれたTシャツ、日本的なオブジェ（こけしや仏像など）をよく見かける。

フランス将棋連盟会長のファビアン・オスモンさんは、アルザスとパリの支部をまとめ、日本将棋連盟との共催でこのフォーラムを企画した。

世界選手権の参加者は 21 か国の代表選手+ヨーロッパ選手権者の合計 22 人。パンフレットに記載されたプロフィールを見ると有段者が多く、世界的なレベルが上がっているのがうかがえる。また、表示は級位者でも実力は高く評価されている選手が多い。(ELOという採点方法があるため、大会で多数対局しないと段位が上がらない)

メイントーナメントは8回戦。じっくり時間をかけて進行する。対局の間や食事の席で各国の将棋ファンが、それぞれ情報やメールアドレスを交換し交流を深めた。また参加者の大半が宿泊するホテルのロビーでは夜な夜な将棋盤が並べられ、対局が続く。それを見て「将棋好きは万国共通だな」と思われた。



青野九段は和文と欧文で書籍にサイン。右はオスモン会長

## 豪華な指導対局

トーナメントの他に、プロ棋士による多面指しが行われた。森内名人、羽生二冠も加わり、日本でも見たことのない豪華な指導対局だった。森内名人に感想をうかがったところ「一手一手を大切に、慎重に指される方が多かった」とのこと。滅多にないプロとの指導対局の機会だから、というのもあるだろうが、大会を見ているだけでも早指しは少なく、理論的に考えるタイプが多いようだ。

## 盛大な歓迎パーティー

大会2日目の夜パーティーが開かれた。開催地となったリュエイク・マルメゾン市や、在仏日本大使館から歓迎の挨拶。棋士のスピーチも含め、すべてフランス語、英語、日本語に訳される。余興として、森内名人による3面指しが行われた。対局者はチェスのトッププレイヤー。フランスのチャンピオン、オランダから17歳のグランドマスター、そして、ヨーロッパ女子チャンピオン。

アルミラ・スクリプチェンコさんは二枚落ちで対局し、3人の中で唯一の勝利を収めた。



3面指し中央がアルミラさん。名人と2枚落ちで見事に勝利

# ファンの熱気は万国共通

## 歴史的な勝利

毎年夏に行われているヨーロッパ選手権3連覇中のジャン・フォルタンさんはフランスの学生。

本大会は7勝1敗で単独優勝を飾った。

続いて6勝2敗で3人が並び、ポイント差で順位が決まった。2位は初参加のハンガリー代表、ラースロー・アブツキさん、3位はフランス代表で大会常連のエリック・シェイモルさん、そしてポーランド代表のカロリーナ・ステュチンスカさんが4位となった。

カロリーナさんは、今夏日本に将棋留学した。将棋連盟の道場で四段を認定され、外国籍の女性の中では、間違いなく最強だろう。

図は第5局。先手はカロリーナさん、後手は日本代表の山口真子元女流アマ名人。

ここから▲5四飛と切って△同歩に▲9五銀。「飛車が取れて優勢を意識した」と言う。

### 【第50手△5四銀まで】

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
三	香	桂		王	王			桂	香	一
										二
口	歩	歩		歩	歩	馬	歩	歩	歩	三
・		飛	王	歩	歩	歩	歩			四
				飛						五
	歩	歩		歩				銀		六
			角	銀	歩	歩			歩	七
					金	玉	金			八
	香	桂						桂	香	九

彼女の棋風は軽いさばきと切れ味鋭い攻めが特徴。この後飛車を打ち込み、激しい攻め合いの末、勝利。女流アマ名人に外国人の女性が勝つというのは、歴史的な快挙である。

彼女は「プロになりたい」という夢を抱いている。言うまでもなく、プロへの道のりは険しく、さらに日本で生活するというハードルがある。

彼女が活躍し、海外の選手の期待の星になることを願っている。



ジャン・フォルタンさんと羽生二冠のサイン本を手にするカロリーナ・ステュチンスカさん

# 海外普及のパイオニア 川崎智秀さん

## 世界の"ヒデッチ"

ユーチューブの将棋入門講座、国際対局サイト「81道場」の開設。海外の将棋ファンで彼の名を知らないものはいない。

「将棋を世界に広める会」の会員でもあり、早くから海外将棋ファンの需要を受けて、インターネット上で独自に将棋普及を展開してきた。

最近では、「将棋・ひと目の定跡」の英訳を手がけ「Joseki at a Glance」が出版されたばかり。会場では150冊が完売、彼が来場すると、待ち構えていたようにサインを求める列ができた。

また、チェスを意識したデザインのオリジナル駒も評判が高く、自作の駒を持ち込んで対局する者も。海外将棋普及のパイオニアとしてその功績は後世まで語り伝えられることだろう。



右が Hidetchi こと川崎智秀さん

A screenshot of the 81Dojo website interface. The top part shows a navigation menu with options like '対局待', '対局中', 'ログアウト', and '雑感'. Below that is a table of players with columns for '状態', 'タイトル', '段級位', 'ハンドルネーム', '国名', and 'レート'. The table lists various players from different countries like Japan, USA, and France. On the right side, there is a 'Standings' table for a '3rd 81Ou League, B-Class' tournament, listing player names, points, and game status. At the bottom, there is a chat window with a list of recent games and a chat input field.

## ネット将棋で交流

世界の国旗がたなびく「81道場」のロビー。今大会上位入賞の4名は、このサイトの常連で、優勝者のジャンさんは Tellmarch というハンドルネームで、現在「81王」というタイトル保持者。カロリーナさんは oneye というハンドルで、このふたりは日夜しのぎを削るライバル同士である。

登録者数は11月中旬までで約5800人。85カ国からの登録があるようだ。

ロビーでの公用語は英語だが、操作方法などはマルチリンガル対応で、日本語での表示も可能。

もちろんメインは対局なので将棋が指せればだいじょうぶ。挨拶はボタン一つできるので、チャットの必要はない。

あなたも将棋を通じた国際交流はいかが？

世界の国旗が並ぶ「81道場」のロビー。英語と日本語に対応し、マニュアルも充実。

登録無料 <http://81dojo.com/>



羽生二冠の指導対局。手を伸ばしているのがアドリアンさん

## あふれる情報

たくさんの将棋ファンとの出会い、思い出の数々。初の I S F 海外開催は感動の連続だった。

そして、終了後に起こったことを記さなければならない。

フェイスブックや、あちこちのホームページで大量の写真やレポートがアップされ、一気に情報が溢れだした。

将棋を、そして日本を愛する人は海外にもたくさんいる。今は翻訳もマウスひとつで何とかなる時代である。国境の壁を越えて将棋ファン同士がつながり、凄まじい勢いで広がっている。「将棋を指しに日本に行きたい」と願う若者もいる。先人たちが地道に撒いてきた種が、ついに芽吹きはじめたのだ。それを大切に育てていくことが、私たち将棋界関係者の務めだと思う。

## 希望の光

誰でもエントリーできるオープン戦には 62 人が参加。タカシマ・トシオさん（ブラジル）が優勝。2位はアドリアン・レヴァチッチさん（フランス）3位は宇都宮靖彦さん（日本）。

アドリアンさんは 15 歳。彼はもともとチェスプレイヤーで、1 年半前にカンヌでゲームフェスティバルに参加。たまたま将棋ブースに立ち寄り、その時筆者が初めてルールを教えたのが将棋との出会いである。

以来、1 日 6 時間将棋を勉強し、今では時おり四段の強豪を負かすほどの腕前だそうだ。

ギリシャの青年、ステファノスさんも将棋漬けの毎日を送っている。彼のネットのページは大会の写真や自身の棋譜など、とにかく将棋の話題で埋め尽くされている。

若者たちがネットでつながり、連日将棋の話で盛り上がっているのを見ると、希望の光を見ているようで、とても眩しい。外国籍のプロ棋士の誕生はそう遠くない未来のような気がする。

初日夜に開催された、「どうぶつしょうぎ大会」はトーマス・プファフェルさん（オーストリア）が優勝した。大会の詳しい結果は I S F ホームページで。